

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25284130

研究課題名(和文) 博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究

研究課題名(英文) International Exchange Activities through Cultural Materials by the Meiji-era Museum

研究代表者

白井 克也 (SHIRAI, Katsuya)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・室長

研究者番号：70300689

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、幕末期から明治時代に至る日本の博物館史を、東京国立博物館と諸外国の博物館との間の所蔵品交換を軸に、分析しようとしたものである。

ドイツのライプツィヒ民族学博物館、オーストラリアのメルボルン博物館と西オーストラリア博物館、英国のグラスゴー博物館を中心に、明治時代に相当する時期の交換品の実物と、交換にかかわる文書類を調査した。これによって、交換の経緯や背景について、多くの知見を得た。

研究成果の概要(英文)：This study aimed at analyzing the history of museums in Japan in the end of the Edo period to the beginning of the modernized Meiji era, focusing on the exchange of collections between the Tokyo National Museum and overseas museums.

During the project, actual examples of exchanged objects and related archives from the times corresponding to the Meiji era in Japan were researched, at museums such as the Museum of Ethnology in Leipzig, Germany, the Melbourne Museum and Western Australian Museum in Australia, and the Glasgow Museums in Britain. Many previously unknown information concerning the processes and backgrounds of exchange projects were attained through this research.

研究分野：考古学

キーワード：日本史 西洋史 美術史 博物館学 交流史

1. 研究開始当初の背景

日本近代における国際交流の研究は、様々な分野での研究成果があるが、明治における近代化の象徴物の1つである博物館については、いまだ研究が充分ではなく、関連資料の公開や分析も果たされていない面が多かった。

一方、本研究の研究代表者・研究協力者らは、東京国立博物館での所蔵品管理業務を通じて博物館史への理解が所蔵品への理解につながり、かつ日本近代史の重要な1側面の解明に役立つとの認識を共有し、若干の研究論文も発表していた。

2. 研究の目的

本研究は、幕末期における西欧の博物館との接触から、維新後における博物館の創設を経て、帝室博物館の成立に至る明治期を中心とした博物館史を、世界史的な視野で再構成するための基礎的な資料調査と研究を、特に所蔵品の流通に着目して行おうとしたものである。

3. 研究の方法

(1) 館史資料の調査

東京国立博物館では、森林太郎(森鷗外)が総長を務めた折、文書を取捨選択して内容と年代ごとにまとめた冊子を製作した。『列品録』『動物録』『重要雑録』などであり、館史研究の基礎資料である。本研究では、東京国立博物館が保管するこれら文書類の高精細デジタル画像を作成して内容の項目一覧表を作成し、また本研究での研究対象となる外国博物館との交流にかかわる文書を中心に、釈読を進めた。

(2) 列品調査

東京国立博物館が外国博物館との交流により入手した所蔵品を調査した。所蔵品自体の形状や保存状態はもとより、所蔵品の由来にかかわる新旧のラベルや、箱書きなども併せて調査した。

(3) 国内調査

東京国立博物館が入手したのち国立科学博物館や九州国立博物館に移管された作品についても調査した。また、外国博物館との交流の原点の1つであるウィーン万博について、北海道大学で関連資料を調査した。

東京国立博物館と外国博物館との交換に関する知見を有する内外の有識者に聞き取り調査を行った。

(4) 現地調査

東京国立博物館が所蔵品の交換を行った博物館を中心に、ドイツのライプツィヒ民族学博物館、ベルリン東洋美術館、オーストリアのウィーン民族学博物館、オーストリア応用美術博物館、オーストラリアのオーストラリア博物館、西オーストラリア博物館、メルボルン博物館、英国のスコットランド国立博物館、ポロックハウス、バレルコレクション、グラスゴー博物館、韓国の国立中央博物館、

オランダのアムステルダム国立美術館で、明治期に入手された日本美術や、交換経緯を示す文書類を調査した。

また、交換事業と関連のある万国博覧会(特に1873年のウィーン万博)や、明治時代に海外で収蔵された日本の文化財も調査した。

(5) 勉強会・研究会

研究代表者・研究分担者を中心として勉強会を定期的開催し、館史資料の釈読や所蔵品の調査を行い、調査成果や今後の方針を確認した。最終年度末には、公開研究会「明治期博物館の国際的な文化財交換」を開催し、研究代表者と研究分担者、さらには本研究と関係の深い研究をされている有識者を招いた研究発表を行った。公開研究会については成果を報告書としてまとめた。

4. 研究成果

(1) 館史資料の調査

高精細デジタル画像と項目一覧表の作成により、釈読の便宜を図ることにより、今後の同資料の公開に向けて準備が進んだ。釈読に至った文書については、本研究の対象となる交換事業に関して、詳しい経緯を復元できた。

また、逆説的ではあるが、所蔵品交換が実現しなかったがゆえに現在の所蔵品などとして反映されていない、様々な形の国際的な博物館間の交流が存在したことは、本研究を通じて痛感される場所であった。例えば、日本の博物館の所管部署や組織が頻りに変わったために、現在の東京国立博物館に連なる機関と、現在の国立科学博物館に連なる機関との間で、何度も混同や混乱が起きていたことが、1886年にアルジェリアのブヴィエが博物館に寄せられた所管とそれをめぐる経緯から知られる。東京国立博物館がオーストラリア博物館と標本交換をしたと聞き、自分も交換したいので、貝類標本を送ったというのである。東京国立博物館は、ブヴィエからの荷物が届いているかどうか横浜税関に問い合わせたが、該当する荷物は存在しなかった。奇妙な事件である上に、この時点では東京国立博物館とオーストラリア博物館との作品交換はまだ行われていなかった。オーストラリア博物館の記録では、1883年にオーストラリア博物館と作品交換をしたのは「Educational Museum in Tokyo」、すなわち現在の国立科学博物館であることがわかった。ブヴィエは国立科学博物館に貝類標本を送ろうとしたのである。実際に標本は宛先に届いたのであるが、「Tokio Museum」宛とした手紙一通だけが、誤って東京国立博物館に配達されてしまったのである。

フィレンツェ王立動物学博物館とは、実際に数回の交換が行われたが、関係者が期待するほどは長続きしなかったが、ここには博物館の財政状況が影響している一方、日本政府において内閣制度が創始されたことにより、

予算の獲得が思うにまかせなくなった事情が読み取れた。このような、明治政府の政治・行政制度の発達史との関連は、今後の課題とすべき点である。

(2) 列品調査

内外の文書と、実物資料との対比によって、東京国立博物館の所蔵資料の収集経緯を明らかにした。また、新旧のラベルや箱書きなども調査したことにより、旧所蔵者である外国博物館で使用されたラベルとの対比や、外国博物館から東京国立博物館に交換後、他の機関に移管された作品の正確な同定も可能となった。

(3) 国内調査

現在泣き別れになった交換品を対比することができることで、所蔵品交換の実情を明らかにすることができた。あわせて、やはり所蔵品の歴史的意義や収集経緯に関心を持つ関係機関とも、博物館史の研究において相互の連携ができるようになった。

(4) 現地調査

東京国立博物館から外国博物館に送られた作品の現在の所在と状態を確認することができるとともに、現地の文書によって、これまで知られていなかった詳細な経緯を知ることができた。

また、東京国立博物館との交換に限らず、対象の外国博物館において、明治期に所蔵に帰した日本の文化財にどのようなものがあるかを確認する過程で、これまで整理や研究が十分に進んでいない作品が多数存在することが確認され、今後、国際的な連携によって研究すべき新たな課題をも認識することができた。

例えば、オーストラリア博物館での調査の際、「1903 Tsuboi Exchange」と表示されたアイヌ民族資料を目にした。日本の人類学史上の重要人物である坪井正五郎（1863～1913）が、1903年にオーストラリア博物館にアイヌ民族資料を寄贈していた事実は、従来はあまり知られていないことである。

(5) 勉強会・研究会

研究成果を関連の研究者で共有し、新たな研究の方向性を示すことができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計1件)

遠藤楽子 「グラスゴー博物館との物品交換事業について」 MUSEUM 査読有 No.647 2013年 43-57頁

〔学会発表〕(計3件)

白井克也 「館史資料からみた東京国立博物館と外国博物館との文化財交換」 公開研究会「明治期博物館の国際的な文化財交換」 2016年3月17日(木) 東京国立博物館(東京都台東区)

遠藤楽子 「東京国立博物館のふたつの「羊図」について」 公開研究会「明治期博物館の国際的な文化財交換」 2016年3月17日(木) 東京国立博物館(東京都台東区)

鈴木希帆 「ラベルからたどる明治期の文化財の移動」 公開研究会「明治期博物館の国際的な文化財交換」 2016年3月17日(木) 東京国立博物館(東京都台東区)

〔図書〕(計1件)

白井克也、遠藤楽子、鈴木希帆、金原さやこ、梶野絵奈 東京国立博物館 『平成二十七年度成果報告 公開研究会「明治期博物館の国際的な文化財交換」』 2016年 52頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白井 克也 (SHIRAI, Katsuya)
東京国立博物館・学芸研究部・室長
研究者番号：70300689

(2) 研究分担者

伊藤 嘉章 (ITO, Yoshiaki)
京都国立博物館・副館長
研究者番号：80213099
(平成25・26年度)

田良島 哲 (TARASHIMA, Satoshi)

東京国立博物館・学芸企画部・課長
研究者番号：60370996

土屋 裕子 (TSUCHIYA, Yuko)
東京国立博物館・学芸研究部・室長
研究者番号：60321551

遠藤 楽子 (ENDO, Motoko)
東京国立博物館・学芸企画部・研究員
研究者番号：60415619

鬼頭 智美 (KITO, Satomi)
東京国立博物館・学芸企画部・室長
研究者番号：80321553

鈴木 希帆 (SUZUKI, Maho)
東京国立博物館・学芸研究部・アソシエ
トフェロー
研究者番号：80633718
(平成27年度)